

2021年4月1日

都市の三次元デジタルツインのサステナブルな利用のための 「デジタルシティサービス」の無償試験利用に関するお知らせ

(一社) 社会基盤情報流通推進協議会
代表理事 関本義秀

拝啓 貴下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会 (AIGID) (※1) では、これまでのG空間情報センター (※2) 等に加え、昨今のスマートシティ等、都市全体の高度管理のニーズを受け、リアルタイムなデジタルツイン環境を提供していく「デジタルシティサービス」 (※3) を2020年6月に東京大学生産技術研究所「デジタルスマートシティイニシアティブ」社会連携研究部門 (※4) と連携してリリースいたしました。

また、国土交通省都市局では、日本全国の3D都市モデルの整備・オープンデータ化プロジェクトが開始され、2020年12月には、「Project PLATEAU」 (以下、PLATEAU) (※5) がオープンし、都市の3次元化が進みつつあります。

そこでAIGIDでは国土交通省都市局と協定を締結し、G空間情報センター上で2021年3月26日からPLATEAUで整備された東京23区のデータを先行して、3D都市モデルの公開を始めました。順次、全国各都市の3D都市モデルや関連する各種データやプログラムの公開も行います。また、2021年6月頃からデジタルシティサービス上での可視化も行い、表1に基づく標準的なデータセットが登録された場合、自動的に表示が行われるようになる予定です。

今後、多くの自治体でこれらの取り組みを加速し、利活用の裾野を広げ、データ維持管理のサステナビリティを体感していくために、民間データと組み合わせた県単位でのデジタルシティサービスの無償の試験利用を約1年間行います。これを機に是非、お申込みを頂ければと思います。

なお、試験利用の条件は以下となります。

<試験利用の条件>

- ・試験利用期間は2021年6月～2022年3月を予定しています。
- ・試験利用期間以降の価格はこちら (<http://www.digitalsmartcity.jp/service.html>) をご覧ください。
- ・PLATEAUで2020年度に整備された56都市以外は、(株)ゼンリンの建物データをもとに表示します。ただし試験利用期間は県内でも時期によって表示する市町村が変わります。
- ・PLATEAUで2020年度に整備された56都市は、国土交通データプラットフォーム (※6) から表示を行う予定です。
- ・G空間情報センターに登録している都市計画基礎調査の建物現況データは、順次、可視化を行っていく予定です。
- ・本試験利用期間は都道府県あるいは政令指定都市単位でAIGIDと東京大学で行っているデジタルスマートシティ研究会におけるWG (四半期に一度程度オンライン開催予定) に出席頂き、積極的なフィードバックを頂ければと思います。
- ・試験利用の申込締切は4/23 (金) です。お問合せ先はcpod-info@aigid.jpです。

引き続き、AIGID並びにG空間情報センターを利用頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

(※1) 一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会 (AIGID)

産官学の関係機関が連携して、サステイナブルな社会基盤情報の流通環境整備を推し進めることを目的に平成 26 年 4 月に一般社団法人として設立された団体です。

関連 URL : <https://aigid.jp/>

(※2) G 空間情報センター

様々な主体が様々な目的で整備している地理空間情報 (= G 空間情報) の有効活用と流通促進を図ること、また社会課題を解決するアクターの後方支援を行うためのデータ流通支援プラットフォームであり、一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が運営しています。

関連 URL : https://www.geospatial.jp/qp_front/



(※3) デジタルシティサービス

「デジタルシティサービス」とは、自治体の単位を基本とした各地域の行政を中心とした様々なデータを G 空間 情報センター上で、保管、管理、可視化 (3 次元を含む)、API 提供等を行っていくサービスです。

関連 URL : <http://www.digitalsmartcity.jp/>



(※4) 東京大学生産技術研究所「デジタルスマートシティイニシアティブ」社会連携研究部門

防災、交通、建物、インフラ構造物、地域経済等、都市運営の各分野を見据えつつ、都市情報基盤のランドデザイン・コンセプトを描き、そのためのデータやソフトウェア等から構成されるデジタルシティを構築し、社会実証を行っていくことを目的に 2019 年 11 月立された研究部門である。

関連 URL : <https://dsci.iis.u-tokyo.ac.jp/>

(※5) Project PLATEAU

2020年度から開始された国土交通省が主導する、日本全国の3D都市モデルの整備・オープンデータ化プロジェクトです。3D都市モデルの整備とユースケースの開発、利用促進を図ることで、全体最適・市民参加型・機動的なまちづくりの実現を目指しています。

関連 URL : <https://www.mlit.go.jp/plateau/>



表1 デジタルシティサービスに掲載(変換)可能なGISデータ

データ種類	形式	備考	表示ズームレベル
航空写真	GeoTIFF	その他の画像形式の場合は、座標系が判別できるファイル(.jgw)を必ずご用意ください	11~18
公共施設・インフラ・設備等の点データ	ESRI Shape*, GeoJSON, CSV	CSVの場合は、緯度経度(WGS84, 10進法)の数値を付与したものをご用意ください	14~18
道路・鉄道等の線データ	ESRI Shape, GeoJSON	-	11~18
都市計画・ハザードマップ・行政界等の面データ	ESRI Shape, GeoJSON	-	12~18
人口・索引図等のメッシュデータ	ESRI Shape, GeoJSON	人口統計などのExcelデータのみから可視化したい場合は要相談	12~18
標準的バス情報フォーマットデータ	GTFS	shape.txtもあるとルート可視化が可能	11~18
建物形状(3次元都市モデル)データ	ESRI Shape, GeoJSON, CityGML	属性値に建物階数または高さ(m)が記載されている場合のみ3D表示可能	11~18
3次元点群(ポイントクラウド)データ	LAS	別途、元データの座標系をご連絡ください	11~18

*: ESRI Shape の場合は、座標系が判別できるファイル「.prj」を必ずご用意ください